

具体的な施策・重要業績評価
指標（K P I）進捗状況評価票
【令和元年度 6 施策】
（修正確認用）

No.	具体的な施策名
1	歴史や文化、スポーツに触れる機会の充実
2	多様な人材の就労支援
3	安心して妊娠・出産できるサポート体制の充実
4	安心して子育てができる環境の整備
5	防災・防犯体制の強化
6	空き家などの活用

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:令和元年度)

基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成		
基本的方向	2	郷土への愛着を感じるふるさと意識の醸成		
具体的な施策	①	歴史や文化、スポーツに触れる機会の充実		
主担当課	文化生涯学習課、スポーツ振興課	関連課	ふるさと文化財課、美術館	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市の伝統芸能や芸術文化を継承していくとともに、文化施設や歴史・文化遺産を活用して、郷土愛を持てるまちを目指します。 ・スポーツタウン府中の発展に向け、各種競技団体、市内の大学や市内を活動拠点とするトップチームなどとの連携を深め、府中市ならではの事業を展開します。 			

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 郷土の森博物館及び美術館の入場者数	人	533,000					
		489,602	498,579	569,685	530,738	419,188	579,175
			A	A	A	B	A
② 大学やトップチームと連携する事業数	事業	3					
		2	2	3	4	5	5
			A	A	A	A	A

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>①郷土の森博物館では、平成30年度にリニューアルオープンしたプラネタリウムを活用するとともに、展示会、出版、講座、体験学習、あじさいまつり・梅まつり、市民団体との共催事業、調査研究事業等を多彩に展開し、市民の知的レクリエーションの場としてふさわしい魅力ある博物館づくりに努めた。</p> <p>令和元年度は、東日本台風（台風19号）の襲来やコロナウイルス感染拡大防止対策のため施設利用の一部休止や臨時休館をしたが、利用者数（276,650人）は前年度（274,662人）を超え、1日当たりの平均入場者数（903人→988人）も前年度から大幅に伸びた点は、取組みの成果として評価できる。</p> <p>市史編さん事業では、7分野からなる専門部会による資料収集・調査・研究を進めるとともに、その成果に基づいて、ビジュアル・多言語版の『武蔵府中まちの歴史物語』、『中世資料編』、『近世資料編上』、『民俗報告書』、『自然報告書』、研究紀要の『武蔵府中を考える』の計6種類の市史刊行物を発行した。さらに市史編さんの成果を活用して、本市の観光事業との協働による講演会を実施した。</p> <p>また美術館では、企画展・公開制作・鑑賞教室等を実施するとともに、市民ギャラリーでは、市内で活動する個人・団体の展示を実施し、来館者数は、開館以来はじめて、30万人を上回るなど、十分成果を上げていると評価できる。</p> <p>ラグビーワールドカップ2019開催に合わせて実施した府中ラグビーウィークで、海外や市外などから本市を来訪する方々に府中囃子、武蔵国府太鼓の郷土芸能や日本文化の紹介及び体験など市内の文化・芸術団体の方々に協力をいただき実施した。また、市指定の無形民俗文化財である府中囃子の演奏技術の伝承に年間を通して支援するとともに、市民を対象とした武蔵国府太鼓講習会を継続して実施し、伝統芸能の普及に努めた。</p> <p>②本市はサントリーサンゴリアス、東芝ブレイブルーパス（ラグビー）、府中アスレティックFC（フットサル）、FC東京（サッカー）、FC東京バレーボールといった、複数のトップチームが市内を活動拠点や練習拠点等としており、全国でも珍しいその特性を生かした、イベントや講座などを実施している。</p> <p>令和元年度は、これらトップチームが一堂に会し連携した、「ボールふれあいフェスタ」では1,700人の参加、市内6か所の地域体育館で体育の日を開催する「みんなのスポーツday」では、一部トップチームの協力及び大学のボランティアサークル等とも連携し開催することで、6館計で令和元年度1,640人が参加、総合体育館においては、府中アスレティックFCによる、2講座（フットサル、チアダンス）、サントリーサンゴリアスによる1講座（タグラグビー）を行うなど、市特有の事業として展開し、スポーツタウン府中の発展に寄与した。</p>
A	

【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】

担当課
評価

①郷土の森博物館は、昭和62年の開館以来、ふるさと府中の貴重な歴史資料の収集・保管・活用を図るとともに、本市の歴史・文化の拠点かつ多摩地区の総合博物館としての役割を果たしてきた。平成26年には本館常設展示室を、平成30年にはプラネタリウムをリニューアルし、ふるさと府中の魅力をより効果的に学習する機会を創出した。一方、園内に四季折々の花を育て鑑賞の場として提供するなど、あらゆる世代が愛着の持てるフィールドミュージアム作りにも取り組んできた。

開館30年以上を経過し、施設の老朽化が進んでいることから、博物館の教育施設としての機能を維持・提供しながら、計画的に老朽化対策を進めることが今後の課題である。

市史編さん事業は、平成26年度に始まり令和5年度の完了を予定している。その間に各時代の基礎資料を集成して資料編を編集し、さらに各時代の通史編や附属刊行物を発行する。現在、編さん計画は順調に進行している。

美術館では、企画展・常設展・所蔵品展を開催し、市民の美術文化に対する意識を高揚に努めてきた。「入館者数」を平成30年度までに220,000人とする第6次総合計画・後期基本の指標を平成28年度に達成し、その後も天井改修工事の影響で約半年間休館となった平成30年度を除き順調に推移している。

開館20周年を迎える2020年は、当初「東京2020オリンピック・パラリンピック」競技の一部が本市内で開催される計画があり、多くの外国人観光客の入場が見込めるため、令和元年度に、一部トイレの洋式化など、バリアフリーの向上に努め、利用者の利便性の向上を図った。

ラグビーワールドカップ等のイベントへの参加を通して郷土芸能である府中囃子及び武蔵国府太鼓の市内外への普及に努めるとともに、演奏技術の伝承を行うため、継続して後継者育成に取り組んだ。また、平成29年度に府中囃子の演奏を収録したCDの作成・販売を開始し、平成30年度には武蔵国府太鼓を収録したDVDの作成・販売を開始し、市内外へ広く普及に取り組んだ。

A

②計画開始2年目である平成28年度には、スポーツタウン府中を標榜する本市の市政に対し、各トップチームが地域貢献の立場から協力的に事業実施を行うことができたため、目標値としていた3事業（フットサル教室・チアダンス教室・バスケット教室）を、総合体育館において、アルバルク東京や府中アスレティックFCの協力のもと実施したほか、平成30・31年度には、サントリーサンゴリアスによるラグビー教室を実施しており、参加者からこれを機会に競技を始めたいとの多数の声が挙がり好評を得た。

その後も従前の事業を見直し・継続しつつ、「ボールふれあいフェスタ」や「みんなのスポーツday」においても継続的に協力を得られており、計画以上の5事業を達成していることから、スポーツタウン府中の実現に向け、成果を上げているものと捉えている。

【令和2年度における取組など】

①郷土の森博物館では、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、令和2年6月2日に再開館した。当面はリスク評価を行いながら利用者の安全を最優先に考え、段階的に機能を再開していく。さらに、新型コロナ時代と共存する新しい展示や体験学習等のあり方についても検討を進める。

また、本年10月からは、本館特定天井改修工事のため常設展示室・企画展示室が休室となる予定であることから、本館内及び復元建築物を活用した展示を充実させるとともに、展示・プラネタリウム・園内の回遊を利用者に促し、敷地全体を生かした利用者に親しまれる博物館づくりに引き続き取り組む。

市史編さん事業では、令和2年度にも資料編、報告書、付属刊行物の発行を予定しており、編さん成果に基づく市民向けの講演会の開催も計画している。

美術館では、企画展、常設展・所蔵品展を開催し、市民の美術文化に対する意識を高揚に努めるとともに、令和3年は、「東京2020オリンピック・パラリンピック」競技の一部が本市内で開催される計画の影響で、多くの外国人観光客の入場が見込めるため、令和2年度に、すべてのトイレを洋式化し利用者の利便性の向上を図っていく。

市指定の無形民俗文化財である府中囃子及び武蔵国府太鼓の伝承普及や後継者の育成に継続して取り組む。

②令和2年度の取り組みについては、本事業の主な会場となっている総合体育館が令和元年台風19号の被害により長期休館を余儀なくされており、また新型コロナウイルス感染症の対策として、施設を休館しイベントを中止したため、事業数が大きく減少することが考えられる。総合体育館については、早期の復旧に取り組んでいくとともに、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、今後も、参加者満足度の向上のため事業内容を工夫するとともに、トップチームなどとの連携を深めながら、更なる充実を目指していく。

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>①郷土の森博物館及び美術館の入場者数は目標値 533,000 人に対し 579,175 人と大きく上回った。郷土の森博物館では、台風 19 号や新型コロナウイルスの影響から臨時休館を余儀なくされたものの、前年度と比較して、年間入場者数及び一日当たりの平均入場者数は増加したことは評価できる。また、美術館でも、開館以来はじめて 30 万人を上回るなど大きく評価できる。それぞれ様々な企画・展示を行っており、入場者数が増加した要因を明確にすることで、今後の取り組みの発展に期待したい。</p> <p>また、市史編さん事業や府中囃子などの伝統芸能の普及支援の取り組みも評価できる。今後の継続・発展に期待したい。</p>
A	<p>②大学やトップチームと連携する事業数は、前年度に引き続き 5 事業と目標値を上回っていたことは評価できる。本市の特徴でもある複数のトップチームと連携した、「ボールふれあいフェスタ」や「みんなのスポーツ day」といった事業を今後も継続していくことに期待したい。</p>

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:令和元年度)

基本目標	1	市内産業の振興と起業・創業の推進による雇用の確保
基本的方向	1	市内産業の経営安定化による雇用機会の維持(経営基盤の強化)
具体的な施策	②	多様な人材の就労支援
主担当課	産業振興課、地域コミュニティ課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・就労意欲のある方が積極的に地域で活躍できるよう、若い世代の就業機会の拡大、働く意欲のある高齢者の就業機会の提供などを支援します。 ・講座を開催するなど、出産や介護などの理由により離職した女性の再就職を支援するとともに、市内企業におけるワーク・ライフ・バランスの推進に向けた取組についての啓発を進めます。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① いきいきワーク府中の就職率	%	36.8					
		32.1	27.2	26.4	24.8	24.2	23.7
		/	C	C	C	C	C
② 女性向け再就職支援の講座数	講座	現状値以上					
		5	5	5	4	3	3
		/	A	A	A	B	B

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>①高年齢者の職業紹介事業は自所求人開拓を積極的に取り組み、就職者数227人、来所者数2,116人、自所開拓求人数2,591件と都内でもトップレベル（令和元年度は2番目）の実績をあげた。</p> <p>定年の引上げ等により求職者の年齢がさらに高くなり高年齢者の就労機会がさらに厳しさを増している状況の中、丁寧な対応を行い再就職につなげた結果、就職者数は年間220人前後を堅持している。求職登録者数は増え続けており、評価指標として就職率は低下する結果となった。</p> <p>システム改修の遅れにより、一時ハローワーク求人データが配信されないトラブルもあったが、かねてから自所開拓により地域に密着した求人を求職者に紹介していることで、就職者数も堅調に実績を上げたことは評価できる。</p>
C	<p>市とセブーンイレブン・ジャパンとの地域活性化包括協定に基づく「シニア向けお仕事説明会」や、都の新規事業である「シニア就業支援キャラバン」などに積極的に協力したことにより、新規求職者が増加した。</p> <p>②再就職支援講座を3講座（延3回、受講者26人）実施し、出産や介護等の理由により離職した女性の再就職を支援した。なお、平成28年度～30年度までは、東京都の全額補助を活用して講座を実施していたが、令和元年度は当該補助事業の終了により、講座の実施回数が減っている。また、令和元年度実施した講座についてはスキルアップ等を目的としているため、就職者数を把握していない。</p>
【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評価	<p>①はつらつ高齢者就業機会創出支援事業は、地域に密着した自所開拓した求人を増やし、求職者の希望・能力・適性などを考慮したうえで丁寧な対応を行うことで就職者数も220人前後を堅持することができた。このことは同事業を行っている12区市でトップレベル（令和元年度は2番目）の実績を上げていることは大いに評価できる。</p> <p>高年齢者の求職者は増え続けており、求職者の年齢層も年々高くなっていることから、相談員が高年齢者の希望する職種や、地域に密着し能力・適性に合った求人をさらに開拓し、より多くの高年齢者が再就職できるよう事業の充実を図る必要がある。</p>
B	<p>②継続的に再就職の支援を行うことができたが、直近3年間は、複数講座の統合や関係機関との共催講座の実施が困難となるなどの理由から、講座の実施が目標値を下回っており、回数を増やす必要がある。</p>

【令和2年度における取組など】

①ハローワークの求人情報に加えて、勤労者福祉振興公社が独自に集めた求人情報を提供して実施する概ね55歳からの無料職業紹介事業「いきいきワーク府中」に対して引き続き支援していく。求人数及び就職者のニーズに対応するため、ハローワーク府中、東京しごとセンター、東京都労働相談情報センター等と連携を図り、再就職支援講座や就職面接会を行い、高年齢者の再就職を支援していく。

求職者の年齢層も年々高くなっていることから、再就職に結びつけることがより困難な高年齢者を支援するシニア活用支援員を活用した、おおむね65歳以上の方を対象にした職場体験事業をあらたに実施する。

②引き続き、講座を開催し、出産・育児・介護などの理由により離職した女性の再就職を支援していくとともに、講座を増やすため、関係機関等へ働きかけを行う。

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】

協議会 評価	①の実績については、目標値 36.8%に対して、令和元年度は 23.7%と数値の面では厳しい状況ではあるが、市とセブンイレブン・ジャパンとの地域活性包括協定に基づく「シニア向けお仕事説明会」や都の「シニア就業支援キャラバン」などへの積極的な協力による新規求職者の増加や地域に密着した求人開拓でのマッチングは評価できるところである。引き続き、利用者が求める職種の開拓に力を入れるなどの対策とハローワーク等との連携強化による就職率向上を目指していただきたい。
B	②女性向け再就職支援講座については、都による補助事業制度の終了により、講座数が減少している状況ではあるが、再就職支援講座については、再就職を目指すスタートラインとなることから、利用者ニーズを把握し、再就職に結びつくような講座運営をお願いしたい。

※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。

B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。

C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:令和元年度)

基本目標	3	若い世代の出産・子育てへの希望の実現
基本的方向	1	若い世代が安心して出産や子育てができるまちづくり
具体的な施策	①	安心して妊娠・出産できるサポート体制の充実
主担当課	子育て応援課、子ども家庭支援課	
施策概要	・妊娠期からの子育て不安の解消に向けて、適切な情報提供を行うとともに、各種健診や教室などを実施します。また、出産前後の家庭の育児や家事を支援し、出産に係る母親の負担感の軽減を図ります。	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① Fu-CHU こそだてサイト「ふわっと」アクセス数	人	現状値以上					
		24,807	26,924	23,887	50,146	59,276	41,115
			A	B	A	A	A
② 産前産後家庭サポート事業の新規登録世帯	世帯	現状値以上					
		213	224	220	213	269	328
			A	A	A	A	A

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>①子育てサイト及びアプリを継続して運営し、幅広く出産や子育ての支援に関する情報提供を行い、育児に係る不安の解消等を図った。主な対象である未就学児童が減少したことや新型コロナウイルスの影響でイベント情報等の掲載ができなかったことにより一時的にアクセス数等が落ちたが、子ども家庭支援センター「たっち」、地域子育て支援センター「はぐ」、中央図書館などから子育てに役立つおたよりを配信するなど、内容の充実に努めた。</p>
A	<p>②産前産後家庭サポート事業の実施により、育児不安を抱える保護者にきめ細やかな支援を提供し、育児に係る不安の解消等を図った。</p> <p>※全妊婦を対象に、妊婦健康診査、超音波検査、HIV抗体検査、子宮頸がん健診の費用助成（対象者1,927人、延べ22,856件）をした。母親学級を年11回、両親学級を年11回実施し、延べ897人の参加があった。離乳食教室、年51回（参加者延べ1,072人）、親と子の歯みがき教室年11回（参加者延べ185人）を実施した。必要時、妊娠届、健診、教室から助産師及び保健師の相談や訪問につなげた。また、子育て世代包括支援センターとして妊娠届出時に全妊婦に看護職等による面談を引き続き実施し、母子の健康保持増進及び安心して子供を産み育てるための環境づくりを充実させた。</p>
【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評価	<p>①子育てサイト及びアプリについてはサイトのリニューアル、アプリ機能の追加、多言語機能の搭載などの取組により成果をあげることができた。</p> <p>②産前産後家庭サポート事業の実施により、育児不安を抱える保護者にきめ細やかな支援を提供し、育児に係る不安の解消等を図った。周知方法を工夫したこと等により登録者も年々増えているため、今後、事業者数を増やすことなどが課題と捉えている。</p>
A	
【令和2年度における取組など】	
<p>①市民がより情報を得やすくなるよう、子育てサイト及びアプリの適切な運用を行うとともに、リーフレットの配布を行うほか、メール配信サービス等様々な媒体によりさらなる情報提供に努める。</p> <p>②産前産後家庭サポート事業を母子保健担当部署に事務移管することにより、育児不安を抱える保護者によりきめ細やかな支援を提供し、育児不安の解消を図る。</p> <p>※引き続き、子育て世代包括支援センターとして、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を充実させていく。</p>	

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>①子育てサイト及びアプリの継続した運営と幅広い情報提供を行っている事を評価する。新型コロナウイルスのためイベントが減り、孤立化して育児不安を抱える保護者もさらに増えていると思われる。新たに始った事業などの情報も提供し、適切な支援を選択することができるような総合的ウェブサービスの設置により、育児に係る不安を速やかに解消する機能をつくっていく事を早急に整備していく事を期待する。</p> <p>②産前産後家庭サポート事業は、きめ細やかな支援を提供し、育児に係る不安の解消等をはかられ、また、周知方法を工夫して、登録者も年々増えていることは評価できる。登録者増大に伴い、事業者数を増やすことなどを課題として捉えた取り組みに期待する。</p> <p>※子育て世代包括支援センターのコロナ禍への新たな対応。妊娠期から子育て期までの切れ目のない継続した支援を広げていく事を、今後期待したい。</p>
A	

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票
(対象:令和元年度)

基本目標	3	若い世代の出産・子育てへの希望の実現
基本的方向	1	若い世代が安心して出産や子育てができるまちづくり
具体的な施策	②	安心して子育てができる環境の整備
主担当課	保育支援課、子育て応援課、子ども家庭支援課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な時期に乳幼児の各種健診や訪問を行い、発育と発達の状況把握や疾病の早期発見に努めることにより、医療などと連携したきめ細かい保健指導を行います。また、各種予防接種を実施し、子どもの健康を守ります。 ・待機児童の解消に向け、既存施設の有効活用などのソフト面の手法と施設の整備などによるハード面の手法を併用することにより、保育サービス量の拡充に取り組むとともに、保育の質の向上を目指します。また、地域の様々な人材や団体、施設などの社会資源との連携や協働を図り、地域全体で子ども・子育てを支える環境づくりを進めます。 ・子ども医療費助成など、経済的な支援を行います。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 新生児訪問実施率	%	97.0					
		86.9	86.1	80.7	88.8	82.3	88.0
		/	B	C	B	C	B
② 特定教育・保育施設の数	箇所	54					
		47	50	52	54	57	60
		/	A	A	A	A	A
③ 安心して出産し、子育てできると感じている市民の割合	%	50					
		48.5	50.3	49.6	49.7	50.3	54.1
		/	A	B	B	A	A

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>①妊娠届出時に看護職による面談を行うことで、妊娠中から医療等関係機関と連携しながら、安全安心の出産及び子育て支援を行うことができた。</p> <p>乳幼児健康診査については、3、4か月児健康診査1,756人（97.7%）、1歳6か月児健康診査1,891人（94.8%）、3歳児健康診査1,987人（93.3%）と、高水準を維持した。定期予防接種については、予防接種ナビちっくん（令和元年度末11,854人と増加）及び里帰り先で接種した費用の償還払いを継続し、平均予防接種率は93.5%と、乳幼児健康診査と同様に高水準を維持し、子どもの健康維持の役割を果たした。新生児訪問については、里帰り先で訪問を希望した家庭63件にも里帰り先の自治体に訪問を依頼し、希望する方全員に訪問を実施することができた（都外里帰り出産出生数の約18%と推定。都外医療機関（助産院含む。）妊婦健診者数平成30年度334件、令和元年度339件）。新生児訪問を未利用の家庭については、3、4か月児健診等で状況確認を行った。新生児訪問においては、産後の母の状況及び発育状況の確認、子育て相談や情報提供を行える機会であるため、今後も引き続き、受診率を上げる取組を行う必要がある。</p> <p>②認可保育所（私立保育園）の整備事業候補者を公募し、選定した事業者候補に対する施設整備に対して開設準備支援を実施し、令和2年4月1日付けで認可保育所を4施設開設した。</p> <p>また、市内保育施設に対して、市職員による巡回支援や保育従事者を対象とした研修などを実施し、保育の質の向上を図った。</p> <p>③子育て中の親の孤立化の防止や子育て不安の解消を図るため、市内13か所で子育てひろば事業を実施したほか、市保育士やボランティアによる子育てひろばや市民団体の子育てひろば活動への補助を行った。また、義務教育終了前までの児童を対象に、医療費の助成や児童手当の支給を行い、子育て家庭の経済的負担の軽減を図った。</p>
A	

【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評価	<p>①乳幼児健康診査や定期予防接種などの事業の実施率は高水準を維持することができた。妊娠届出時の看護職の面談や産後の母子の心身のサポートをする産後ケア事業を開始したほか、B型肝炎ワクチンの定期接種化、新生児聴覚検査の費用助成など、母子の健康を守るサービスを充実することができた。</p> <p>令和元年度からは子ども家庭支援センター「たち」と福祉保健部健康推進課母子保健係が1つの課統合されて子ども家庭部子ども家庭支援課となり、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援の体制強化ができた。</p>
A	<p>②計画的かつ継続的な施設整備により、認可保育所等の定員増を図ることができた。また、認可外保育施設利用者への補助拡大や私立幼稚園における幼稚園型一時預かり事業等の実施に加え、保育コンシェルジュによるきめ細やかな相談対応など、施設整備以外にも様々な取組を進め、待機児童を減少させることができた。</p> <p>③子育てひろばが11か所から13か所に増え、子育て中の親の孤立化の防止や子育て不安の解消を図ることができた。また、法令等に基づき、手当・医療費助成を継続実施することにより、子育て家庭の経済的負担の軽減を図ることができた。</p>
【令和2年度における取組など】	
	<p>①妊娠届出時の看護職による全件面接を継続し、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援及び必要に応じて保健師の継続相談等につなぐ早期支援の体制を維持していく。また、面談を受けた妊婦に対し、新型コロナウイルス感染症対策を含めた育児パッケージの配布を開始するとともに、産後の母子の心身のサポートを充実させるために開始した産後ケア事業を継続する。定期予防接種ではロタウイルスワクチンを新たに導入する。新型コロナウイルス感染症蔓延禍の中でも感染防止に配慮した各種母子保健サービスを実施する。また、新型コロナウイルス感染症に伴う育児不安などに個別に丁寧に対応し、母子の健康を守っていく。</p> <p>②引き続き、待機児童解消に向けて、認可保育所2施設の施設整備を行うほか、保育コンシェルジュによる相談窓口業務を通じて、各子育て世帯に応じた保育サービスの提案を行う。</p> <p>③地域で子育てひろばを展開するとともに、市立保育所の地域子育て支援拠点の整備を進める。また、法令等に基づき、手当・医療費助成を継続実施することにより、子育て家庭の経済的負担の軽減を図る。</p>

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>子育て支援の取り組みの拡充がすすんでおり、安心して出産、子育てのできる街に向けた環境整備は着実に進んでいると評価できる。</p> <p>① 乳幼児対象の各種検診の受診率が高水準であることに加えて、里帰り出産の家庭には里帰り先の自治体への訪問依頼を行うなどきめ細かいケアが行われている。今後は妊娠期から子育て期までの継続した支援体制の継続、強化が期待される。</p> <p>② 近隣の自治体とともに待機児童問題は深刻な状況にあったが、認可保育所、認証保育所の定員増がすすみ、令和元年度は待機児童数が大きく減少している。</p> <p>③ 子育て中の親の孤立防止、子育て不安解消の取り組みも継続した取り組みになっており、子育て家庭の経済的負担の軽減策とともに、安心して子育てのできる街という市民意識にもつながっている。</p>
A	

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:令和元年度)

基本目標	4	地域とつながる安心な暮らしの確保
基本的方向	1	みんなが安心して暮らせる地域づくり
具体的な施策	①	防災・防犯体制の強化
主担当課	防災危機管理課、地域安全対策課	
施策概要	・全ての市民が安心して暮らし続けられるよう、地域の防災・防犯体制を強化するとともに、災害に強い都市基盤づくりを進めます。	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 日頃から家庭で災害に対する備えをしている市民の割合	%	80.0					
		62.2	57.4	62	55.8	66.8	68.8
			B	B	C	B	B
② 地域安全リーダー講習会受講者数	人	450					
		311	332	354	374	387	400
			A	A	B	B	B

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>①防災訓練及び出前講座の実施、防災情報誌「自主防災ふちゅう」を配布し、市民による自助の必要性や、各家庭で取り組むことのできる防災対策について説明した。また、文化センター圏域自主防災連絡会を開催し、地域での共助の取組についての啓発を行った。</p> <p style="padding-left: 40px;">防災訓練……107回 参加人数 18,320人 出前講座……16回 文化センター圏域自主防災連絡会…21回 参加人数 422人</p>
B	<p>②防犯体制の強化について</p> <p>地域安全リーダー講習会については広報ふちゅうや課が発行する広報誌「ニュースまちかど」、メール配信、警察や各協力団体へ広く呼びかけを行い、昨年度と同数の13名が参加した。参加者の層は学校見守りボランティア関係者、自治会、警察協力団体等がメインであった。参加者のうち7名が女性の参加者であり、女性の防犯意識の向上と活躍の幅を広げることができ、たほか、40歳の若手男性1名の参加を得ることができ、活気ある講習会を実施した。</p> <p>また、寸劇防犯講話については年1回バルトホールを使用して実施し、約300名の参加者に特殊詐欺の最新情報を交えた寸劇を実施し好評を得た。</p>
【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評 価	<p>①同じ地域に住む自治会等の団体が防災について情報共有できる場として、文化センター圏域自主防災連絡会を創設した。自主防災連絡会の中で、他の団体の取組を参考にして防災活動を始める団体が出てくるなど、一定の効果があったと考えられる。</p> <p>また、自主防災連絡会の活動が、各団体の防災訓練のマンネリ化の防止や、これまで地域の防災活動に無関心だった住民の防災活動への参加など、地域の防災活動の活性化につなげることができた。</p>
B	<p>②地域安全リーダー講習会の総括</p> <p>市内の刑法犯認知件数は、5年連続で減少（平成27年中は1,872件、令和元年中は1,450件 ※年度ではなく、年単位での統計）しており、リーダー講習受講者を中心とした地域防犯活動もこれに貢献できていると考えている。毎年一定数の参加者は確保しているが、参加者がやや減少傾向にある。今後はさらに若い世代の参加者を増やしていく必要があるため、開催の呼びかけ方法を工夫するなど、周知を図っていく。</p>

【令和2年度における取組など】

・今後も、自主防災連絡会のみならず、防災訓練や防災出前講座、防災情報誌の発行などをおして更なる啓発が必要だと考えられる。

特に令和元年東日本台風の経験から、水害に対する市民の意識が高まっているため、水害時における自助・共助や各自で行う備えについて啓発していく。

・地域安全リーダー講習会は、毎年市役所会議室や府中警察署で実施し、市役所・警察署周辺をパトロールし防犯マップの作製等をしてきた。令和2年度については防犯協会とも協議をした結果、白糸台文化センターを使用し、東部地域における犯罪の特徴の説明なども講習に取り入れ、東部地域に密着した形での開催を検討している。令和3年度以降は、令和2年度の実施状況を踏まえたうえで、各文化センターを拠点に、地域に密着した形での実施も視野に入れていく。

また、「ながら見守り連携協定」締結企業等へも参加を募るなど、幅広く市民の参加を呼び掛けていきたい。

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】

協議会 評価	① 防災訓練だけではなく、文化センター圏域自主防災連絡会における地域ぐるみの活動で、安否確認を全ての圏域で取組むなど今後の防災意識を高める上で有効だと評価できる。 自然災害に対する市民の意識も高まっているからこそ、更なる防災についての周知、情報発信を継続してほしい。
B	② 地域安全リーダー講習会は参加者増に至っていない。 総括にある通り若い世代の参加を増やすことが急務と考える。ただ、参加者の半数が女性だったことは大きな成果と評価できる。 今期は文化センターでの地域に密着した講習を企画するなど工夫がみられる。 広く呼びかけをしていただき、次の地域に繋げていただきたい。

※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。

B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。

C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:令和元年度)

基本目標	4	地域とつながる安心な暮らしの確保		
基本的方向	2	地域コミュニティの活性化		
具体的な施策	②	空き家などの活用		
主担当課	環境政策課	関連課	住宅課、地域コミュニティ課	
施策概要	・空き家や空き店舗などは、地域活動に活用できる重要なストックであることから、これらを有効活用し、地域コミュニティ拠点の整備などを目指します。			

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 空き家等を活用した コミュニティ活動 事例	人	実施					
		未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施
		/	C	C	B	B	B

- ※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度は、空き家の発生予防や空き家の利活用・適正管理を市民に周知・啓発するため、空き家の適正管理や実家の相続等に関するセミナーを1回、空き家の適正管理に係る啓発用DVDを用いた勉強会を3回開催し、合計80名の参加があった。また、セミナー終了後に実施した個別相談会には13組の参加があった。 ・空き家を所有する市民等からの賃貸・売買・適正管理等の様々な相談に適切に対応するため、関係機関と連携した相談体制を令和2年度から設けられるよう準備を進めた。
B	
【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年5月に空家等対策の推進に関する特別措置法が全面施行され、本市においても平成28年度より「府中市空家等対策協議会」を設置・運営するとともに、平成30年度を初年度とする「府中市空家等対策計画」を策定し、本市の空き家対策の基本方針の制定や実施体制の確立など、空き家対策の推進を図ってきた。 ・空き家の利活用・適正管理に係るセミナー・個別相談会等を継続的に実施することにより、多くの市民にその重要性を周知・啓発することができた。 ・空き家の有効活用による地域コミュニティ拠点の整備については、他自治体での実施例などを参考に検討を行っている。
B	
【令和2年度における取組など】	
<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の利活用について、府中市空家等対策計画に則り、空き家対策は所有者等による自己管理にあるという原則との整合を図りながら進めていく。 ・空き家の利活用・適正管理に係るセミナー・相談会を引き続き実施し、市民の空き家に関する理解を深め、利活用等につなげていく。 ・空き家の賃貸・売買・適正管理等の相談に対し、関係機関と連携した相談体制により適切に対応する。 ・空き家を地域資源として活用できるよう、地域コミュニティにおける人材と空き家をマッチングする具体的な手法について検討を行う。 	

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の発生予防や空き家の利活用・適正管理を市民に周知・啓発するためのセミナーや勉強会などを開催し、セミナー終了後の個別相談会を継続して実施されたことを評価する。 ・空き家を所有する市民等からの様々な相談に対応し、関係機関と連携した相談体制の準備が進められ、利活用等につなげていく取り組みにも期待する。 ・空き家等を活用したコミュニティ活動事例は、まだ未実施である。空き家を地域資源として活用できるよう、地域コミュニティにおける人材と空き家をマッチングする具体的な手法や他自治体での実践例として紹介したリトルワンスの母子家庭を対象にした居住支援などを参考に検討を行っていくとの事。また、コロナ禍などで始まった活動としてフードバンクやフードパントリーなどの活動拠点を探していると聞く。今後様々な空き家の利活用の検討を進め、地域コミュニティ活動が実施されることを期待したい。
B	

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。